

# ひきこもり等に関する調査結果

平成27年10月 山梨県福祉保健部

## 1. 調査の手法・目的

県では、ひきこもり等の状態にある者やご家族に適切な支援に結びつきやすくすることを目的に、「山梨県ひきこもり相談窓口」を開設することとした。

加えて、市町村等関係機関と協働し、身近な地域において包括的・継続的な相談や必要な支援を受けられるよう体制整備を進めているところである。

本調査は、山梨県民生委員児童委員協議会及び各市町村民生委員児童委員協議会、県内で活躍されている多くの民生委員・児童委員のご協力を得て、担当している地区において現在把握されている情報をアンケート用紙に記入してもらう手法とした（個別訪問や関係先等への照会を行わない）。

ひきこもり等の概数を把握し、県及び市町村において、生活相談、就労支援、医療的支援、アウトリーチなどの施策展開を検討していくための基礎資料とすることを目的として、本調査を実施した。

## 2. 調査対象

この調査では、概ね15歳以上の者で、次に該当するようなものを「ひきこもり等の状態にある者」とした。

- (1) 社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の者
- (2) 社会的参加ができない状態が6か月以上続いているが、時々買い物などで外出することがある者  
ただし、重度の障害、疾病、高齢等で外出できない者を除く。

## 3. 調査基準

平成27年7月現在

## 4. 調査方法

県内の担当地区を持つ民生委員・児童委員（主任児童委員の一部）2,337人に対するアンケート調査

## 5. 回収結果（有効回収率）

1,851人（79.2%）

## 6. 調査結果

- (1) 該当者の人数... 2ページ
- (2) 該当者の性別... 2ページ
- (3) 該当者の年代別性別状況... 3ページ
- (4) 家族構成（全体・年代別）... 4ページ
- (5) 該当者の状況... 5ページ
- (6) ひきこもり等の状態にある期間（全体・年代別）... 6ページ
- (7) ひきこもり等に至った経緯（全体・年代別）... 7ページ
- (8) 支援の状況... 8ページ

( 1 ) 該当者の人数

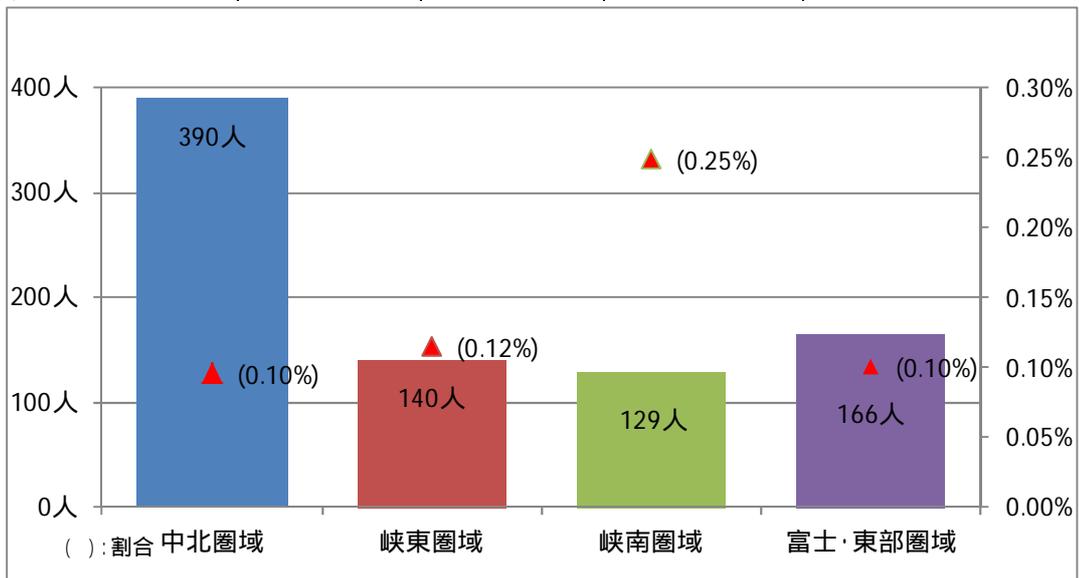
本調査により把握できた該当者の総数は825人となっている。

人口当たりの該当者の割合は、0.11%となっている。(平成22年国勢調査における15歳以上人口743,036人に占める割合)

回収結果(1,851)に占める該当者の割合は44.6%であり、アンケート全数の回答があったものとして推計すると、1,042人となる。

(人口当たり該当者割合0.14%)

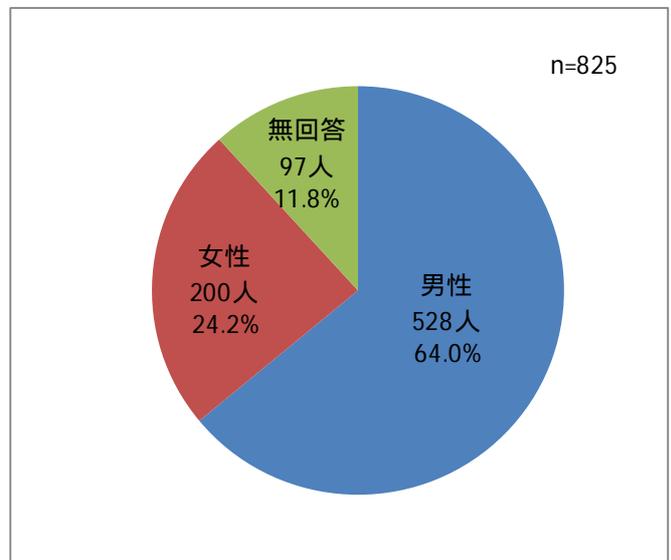
圏域	該当者数	15歳以上人口(A)	15歳以上人口に占める割合
中北圏域	390人	404,973人	0.10%
峡東圏域	140人	121,602人	0.12%
峡南圏域	129人	51,805人	0.25%
富士・東部圏域	166人	164,656人	0.10%
合計	825人	743,036人	0.11%



( 2 ) 該当者の性別

該当者の性別は、男性が64%、女性が24%、無回答が12%となっており、男性が女性の2.6倍程度高い比率となっている。

性別	該当者数	割合
男性	528人	64.0%
女性	200人	24.2%
無回答	97人	11.8%
合計	825人	100.0%



(3) 該当者の年代別性別状況

年代別では、40歳代が最も多く、次いで、30歳代、60歳代以上となっている。

年代別にみると、15歳から39歳までの「若者層」が324人、39.6%、

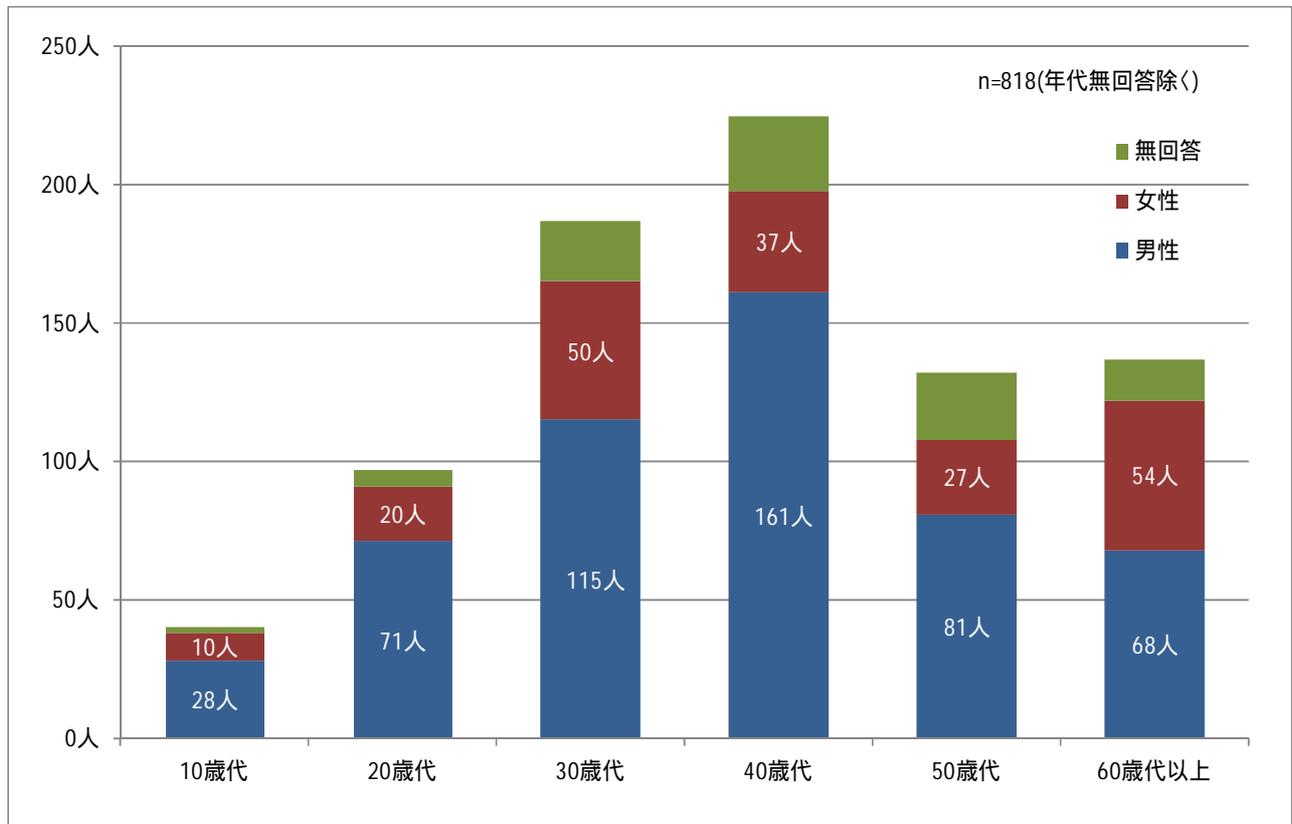
40歳代以上の「中高年層」が494人、60.4%を占めている。

男女別では、各年代とも男性の割合が50%を超えている。60歳代以上の男女の割合の差は他の年代に比べ少ない。

男性は、40歳代が最も多く、次いで30歳代、50歳代の順となっている。

女性は、60歳代以上が最も多く、次いで30歳代、40歳代の順となっている。

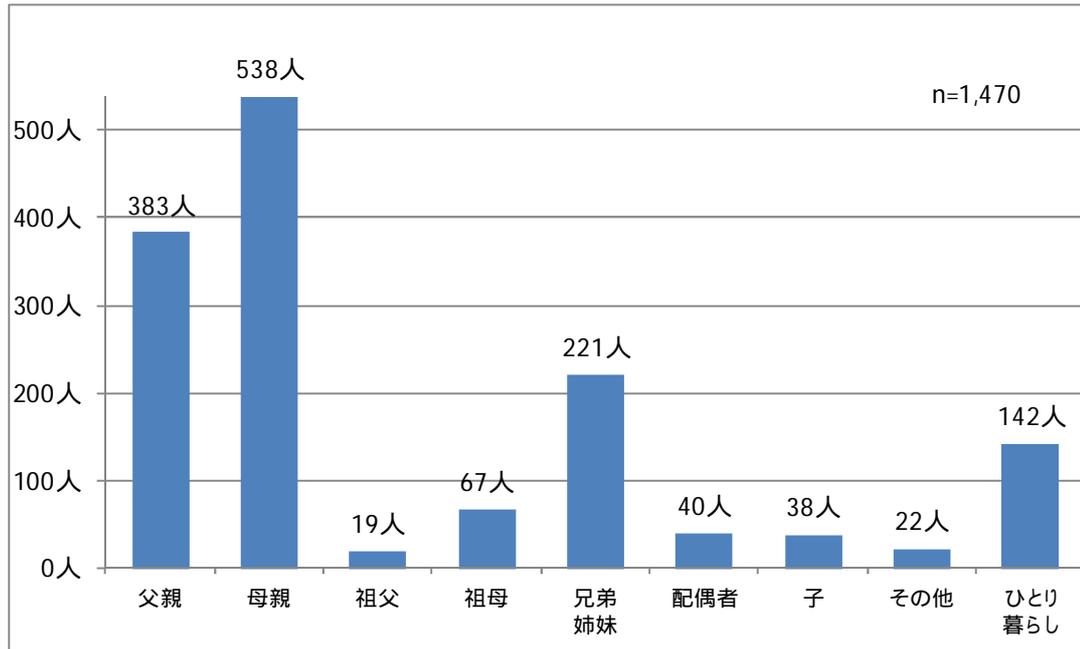
年代	男性	女性	小計	無回答	合計	年代別割合 (年代無回答除く)	「若年層」 「中高年層」 割合(年代無回答除く)	「若年層」 「中高年層」 割合(年代無回答除く)	年代別総人口に占める割合
10歳代	28人	10人	38人	2人	40人	4.9%	324人	39.6%	0.09%
20歳代	71人	20人	91人	6人	97人	11.9%			0.12%
30歳代	115人	50人	165人	22人	187人	22.9%			0.17%
40歳代	161人	37人	198人	27人	225人	27.5%	494人	60.4%	0.20%
50歳代	81人	27人	108人	24人	132人	16.1%			0.12%
60歳代以上	68人	54人	122人	15人	137人	16.8%			0.05%
小計	524人	198人	722人	96人	818人				
無回答	4人	2人	6人	1人	7人				
合計	528人	200人	728人	97人	825人		818人		0.11%



(4) 家族構成 (複数回答可)

全体

ひとり暮らしは17.2% (該当者数825人に占める割合) であり、母親との同居を筆頭に、8割以上は家族と同居している。

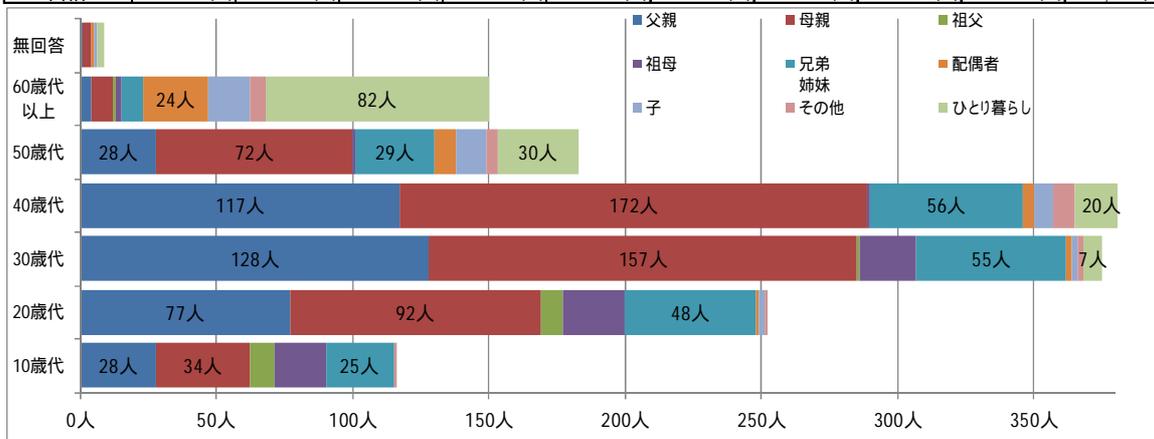


年代別

10歳代から40歳代は主に父、母と同居している数が多い。

「ひとり暮らし」142人に占める割合は60歳代以上が57.7% (該当者825人に占める割合は9.9%)、50歳代21.1% (同3.6%)、40歳代14.1% (同2.4%)、30歳代4.9%の順になっている。20歳代以下の「一人暮らし」該当者はいない。

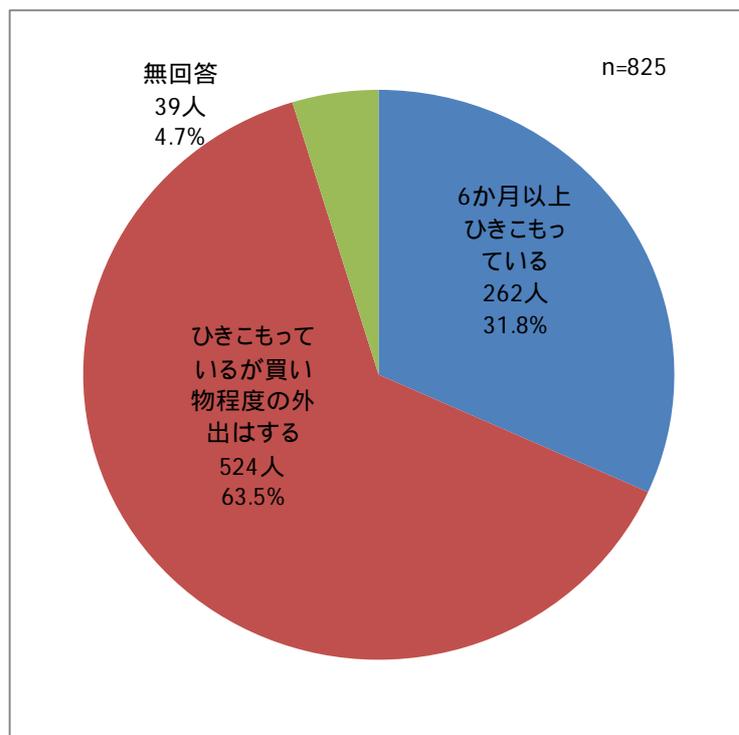
年代	父親	母親	祖父	祖母	兄弟	配偶者	子	その他	ひとり暮らし	合計
10歳代	28人	34人	9人	19人	25人	0人	0人	1人	0人	116人
20歳代	77人	92人	8人	23人	48人	1人	2人	1人	0人	252人
30歳代	128人	157人	1人	21人	55人	2人	2人	2人	7人	375人
40歳代	117人	172人	0人	1人	56人	4人	7人	8人	20人	385人
50歳代	28人	72人	0人	1人	29人	8人	11人	4人	30人	183人
60歳代	4人	8人	1人	2人	8人	24人	15人	6人	82人	150人
無回答	1人	3人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	3人	9人
合計	383人	538人	19人	67人	221人	40人	38人	22人	142人	1,470人



(5) 該当者の状況

全体

「ひきこもっているが、買い物程度の外出はする」が全体の63.5%、「6か月以上ひきこもっている」が全体の31.8%であった。

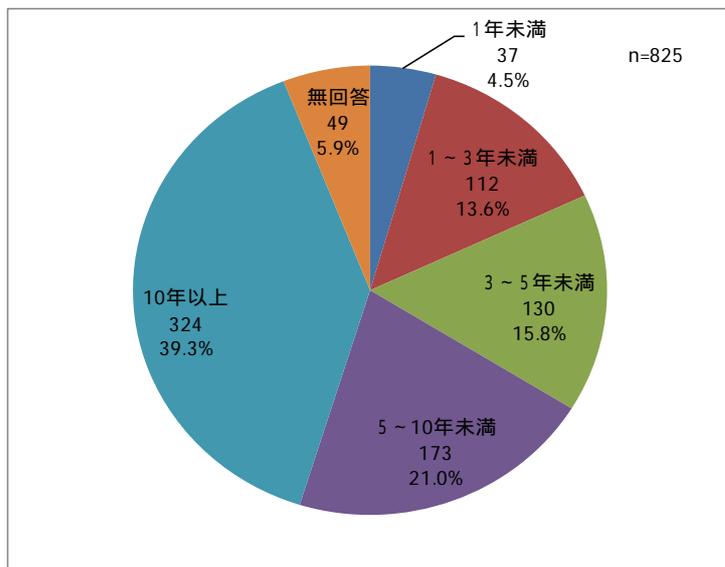


(6) ひきこもり等の状態にある期間

全体

ひきこもり等の期間が「3年以上」に及ぶ割合が76.0%、「5年以上」に及ぶ割合が60.2%を占める。

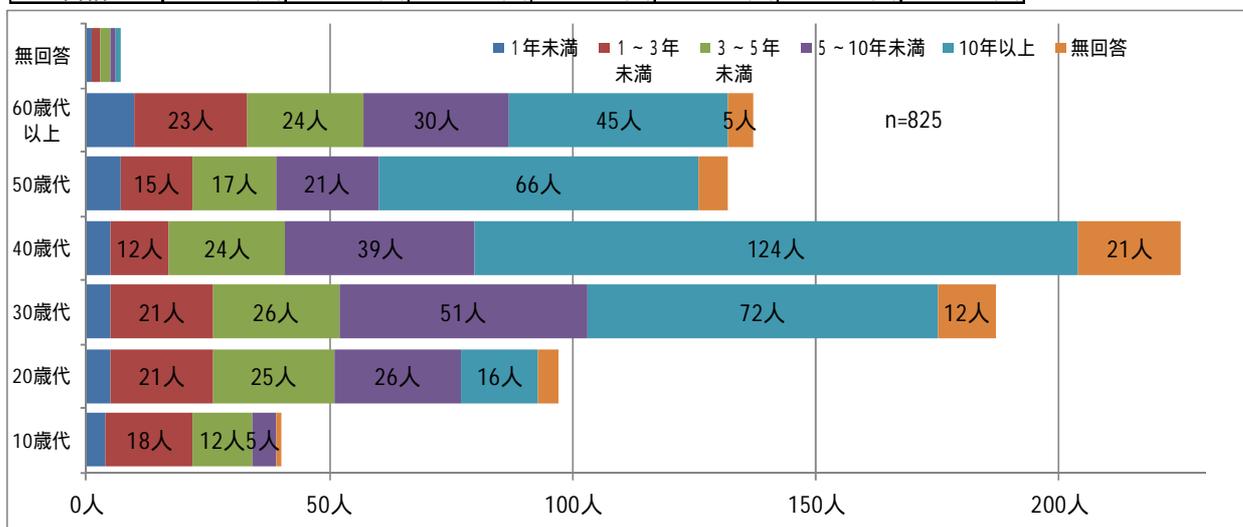
「10年以上」が最も多く、39.3%を占める。



年代別

10歳代では「1~3年未満」の数が最も多く、20歳代では「5~10年未満」の数が最も多い。30歳代からは「10年以上」の数が最も多くなっており、特に、40歳代では6割以上が、50歳代では概ね半数が10年以上ひきこもり等の状況にある。

年代	1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10年以上	無回答	合計
10歳代	4人	18人	12人	5人	0人	1人	40人
20歳代	5人	21人	25人	26人	16人	4人	97人
30歳代	5人	21人	26人	51人	72人	12人	187人
40歳代	5人	12人	24人	39人	124人	21人	225人
50歳代	7人	15人	17人	21人	66人	6人	132人
60歳代以上	10人	23人	24人	30人	45人	5人	137人
無回答	1人	2人	2人	1人	1人	0人	7人
合計	37人	112人	130人	173人	324人	49人	825人

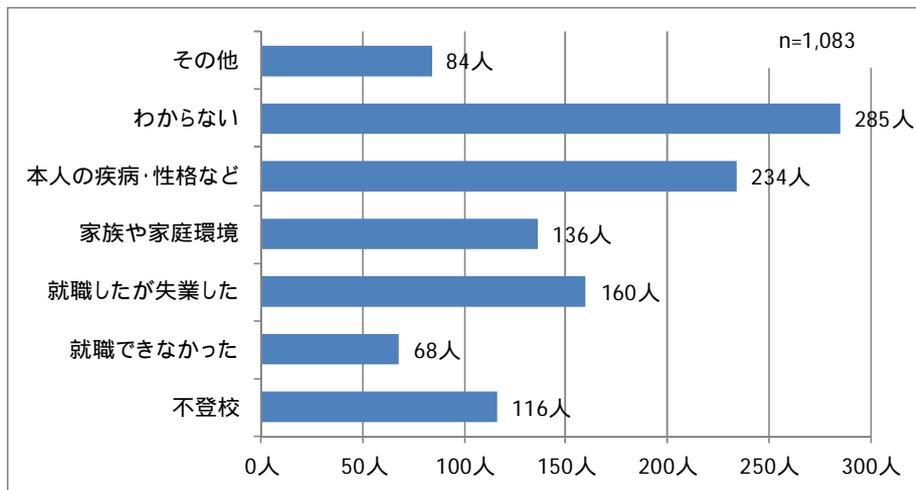


(7) ひきこもり等に至った経緯(複数回答)

全体

「わからない」が285人と最も多く、全体の26.3%を占めている。民生委員・児童委員等の把握の困難さを示していると考えられる。

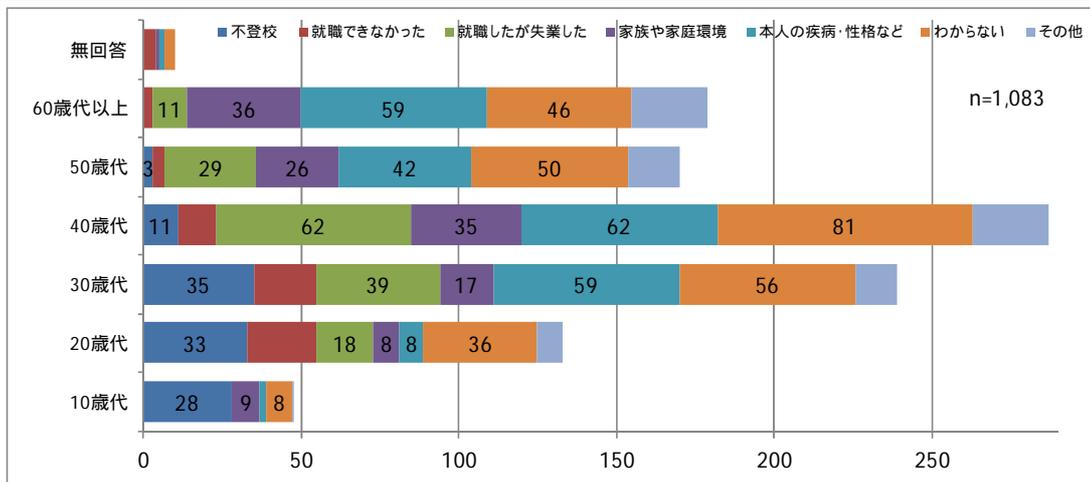
経緯がわかるもののうち、「疾病・性格など」「失業した」「家族や家庭環境」の順に多い。「不登校」が経緯となっているものも全体の10.7%を占めている。



年代別

経緯がわかるもののうち、10歳代、20歳代では「不登校」を経緯とする数が最も多く(それぞれ58.8%、26.0%)、30歳代においても14.9%と「本人の疾病・性格など」「就職したが失業した」に次いで「不登校」を経緯とした数が多い。経緯がわかるもののうち、20歳代では「就職できなかった」の割合が2番目に多く、「失業」を経緯としたものは、20歳代(13.0%)が3番目に、30歳代(16.1%)が2番目に多く、40歳代(21.6%)では最多である。

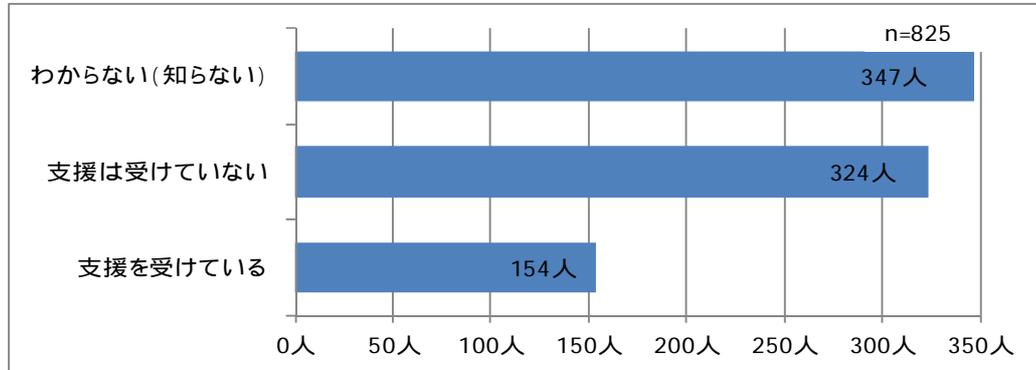
年代	不登校	就職できなかった	就職したが失業した	家族や家庭環境	本人の疾病・性格など	わからない	その他	合計
10歳代	30人	1人	0人	10人	1人	8人	1人	51人
20歳代	34人	22人	17人	9人	9人	35人	5人	131人
30歳代	37人	21人	40人	18人	60人	59人	14人	249人
40歳代	12人	12人	63人	35人	61人	83人	25人	291人
50歳代	3人	5人	29人	27人	42人	51人	15人	172人
60歳代以上	0人	3人	11人	36人	59人	46人	24人	179人
無回答	0人	4人	0人	1人	2人	3人	0人	10人
総計	116人	68人	160人	136人	234人	285人	84人	1,083人



(8) 支援の状況

「わからない(知らない)」が347人と最も多く、全体の42.1%を占めている。「ひきこもり等に至った経緯」同様、民生委員・児童委員等の把握の困難さを示していると考えられる。

「支援を受けている」は18.7%と最も低く、支援に結びつくむずかしさを示していると考えられる。



(9) 自由意見から

- ・デリケートな問題で難しさを感じた。
- ・世間体を気にして相談しない。
- ・本人、家族が言ってくれない限り、支援が進まない。
- ・家族の高齢化により本人の生活環境が悪化している。
- ・地域ぐるみの対策ができていない。社会参加できる対策が必要。
- ・家族が相談したくても市町村の窓口がなく、八方ふさがりになっていると思う。
- ・市町村の相談窓口を紹介してほしい。
- ・行政や民間などの支援内容や相談窓口のアピールが必要。
- ・身近に居場所があればいいと思う。
- ・学校や親との連携強化によって、不登校、ひきこもりへの対応が可能になると考える。